

投与プロトコール 1コース 14日間 制限なし 《開始時基準 PS:0~2 75歳以下》		投与量	投与日	投与時間	備考
ルートKeep	生理食塩液	250mL	Day1	初回5時間、以降4.5時間	
プレメディ	グラニセトン注ハック 3mg/100mL デキサート注 6.6mg/2mL ポララミン注 5mg	1袋 1V 1A	Day1	30分 点滴	
前フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	全開 点滴	
①	ベクティビックス 6mg/kg 生理食塩液	mg 100mL	Day1	初回60分 以降30分	
後フラッシュ	生理食塩液	50mL	Day1	ベクティビックスと同じ 速度で	経過観察中に フラッシュ
経過観察 (1時間)	ベクティビックス後フラッシュ後、ルートキープ用生理食塩液にて経過観察 ベクティビックス終了後、infusion reactionの発現に注意して1時間経過観察し、②③を投与する。				
②	オキサリプラチン 85mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液	mg 250mL	Day1	2時間 点滴	
③	レボホリナート 200mg/m <sup>2</sup> 5%ブドウ糖液	mg 250mL	Day1	2時間 点滴	
★②・③は同時に投与					
④	フルオロウラシル(急速) 400mg/m <sup>2</sup> 生理食塩液	mg 50mL	Day1	全開 点滴	全量50mLに調製
ルートKeep生食 終了					
⑤	フルオロウラシル(持続) 2400mg/m <sup>2</sup> 生理食塩液	mg 100mL	Day1-3	46時間 点滴	ディスポーザブル ポンプ使用

## &lt;使用上の注意点&gt;

☆緑内障、前立腺肥大等下部尿路に閉塞性疾患のある患者は、ポララミン注は禁忌。

(オロパタジン錠等へ変更)

## 【ベクティビックス】

- ◆infusion reactionとして、アナフィラキシー様症状、血管浮腫、気管支痙攣、発熱、悪寒、呼吸困難、低血圧等があらわれることがあるので注意する。緊急時の対応できるよう準備しておく。重度(Grade3以上)のinfusion reactionが現れた場合、本剤の投与を中止し、以降、本剤を再投与しないこと。また、Grade2以下のinfusion reactionが現れた場合は、投与速度を減じて慎重に投与すること。(米国の添付文書には「投与速度を50%減速する」と記載されている)

- ◆投与前後は、生理食塩液50mLを用いて点滴ラインを洗浄し他剤との配合は避ける。フラッシュ生食はベクティビックス投与前は全開、ベクティビックスの投与後はベクティビックスと同じ投与速度で点滴。ベクティビックス投与中及び投与終了後少なくとも1時間は観察期間(バイタルサインをモニターするなど)を設けること。

- ◆間質性肺炎、肺線維症など重篤な副作用が起こることがあるため注意する。
- ◆ざ瘡様皮膚炎、紅斑、発疹、そう痒、爪囲炎、皮膚剥脱、皮膚亀裂および皮膚乾燥があらわれることがあるので注意する。保湿剤やステロイド剤等の使用や手足の保護などセルフケアで対処する。
- ◆保存剤を含有していないため、希釈後は6時間以内に使用すること。すぐに投与開始しない場合は冷蔵保存(2~8℃)し、24時間以内に投与開始することが望ましい。
- ◆インラインフィルター(0.2又は0.22ミクロン)を用いて投与すること。

## 【オキサリプラチン】

- ◆機能障害を伴う重度の感覚異常又は知覚不全のある患者には禁忌。
- ◆溶解には5%ブドウ糖溶液のみを用いる。
- ◆投与中あるいは投与後に過敏症が現れることがある。初回に現れる場合と何コースかくり返した後で起こる場合がある。息苦しさ、かゆみ、皮疹、発疹などの症状に注意する。
- ◆末梢神経障害がおこることがある。急性の場合は、投与直後から長くて5日後に発現。持続性の場合には、用量依存的に発現する。全身及び口腔内にしびれや咽頭絞扼感などの症状が現れる。低温(冷たいもの、空気、飲み物)との接触を避けること。

## 【レボホリナート】

- ◆調整後24時間以内に使用すること。

## 【フルオロウラシル】

- ◆持続静注により、口内炎がおこることがある。口腔内を清潔にするなど予防を行う。オキサリプラチンの末梢神経障害を誘発するため氷の使用は避ける。
- ◆投与数日~数週間後に手足症候群が発症することがある。手掌、足底の皮膚にヒリヒリ感、しびれ感、知覚過敏、ほてり感、腫脹を生じる。保湿剤の使用や手足の保護などセルフケアで対処する。
- ◆アレピアチンと併用注意。(アレピアチンの血中濃度を上昇させるため。)
- ◆ワーファリンと併用注意。(ワーファリンの作用を増強させるため、凝固能の変動に注意。)
- ◆他のフルオロウラシル系薬剤投与中、及び中止後7日以内の患者は禁忌。(TS-1は併用禁忌。)